



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 1

帽子の色 白 埼玉県	15	$\left. \begin{array}{r} 4 - 1 \\ 3 - 1 \\ 5 - 3 \\ 3 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 7$	青 帽子の色 山形県
天候： 曇り			審判1： 波多 祥詩 審判2： 大島 明

戦評

「あなたがキラリ☆」のスローガンのもと、晴れの国岡山国体が開催された。記念すべき第60回大会の初戦は、関東1位の埼玉県と、東北1位の山形県の対戦。埼玉はU18日本代表選手を7名、U16日本代表選手を2名抱える優勝候補である。一方の山形は、今大会で8回目の出場の日体常連チーム。同じくU18日本代表の高橋選手を擁し、初戦突破を狙う。

1P、センターボールを獲得した埼玉の攻撃で始まった。序盤の2分間は互いに相手を伺う展開。山形GK武田、埼玉GK森脇がシュートによく反応し、ゲームが引き締まる。均衡を崩したのは4'08"山形6の阿部がダブルポストからゴール左隅に決めて0-1。ゲームが動き出し、3'06"には埼玉6浜田がカウンターアタックを決めて1-1。2'31"には埼玉3レフティ乙女の中道シュートが見事に決まって1-2。その後も埼玉は5山口が1'53"、1'02"と連続ゴールを決め4-1。山形はダブルポストを使うなど積極的にセットオフenseを仕掛けたが、埼玉のカウンターが始まると積極性をやや欠いてしまった。ここから立て直し、埼玉のスピードを恐れずに自分たちの持ち味を生かし切れるかが課題となる。

両チームともメンバーをほとんど変えずに2Pが開始。6'26"、埼玉7若松が山形2高橋に対して退水を誘発。U18代表選手同士の戦いは見応えがある。その後のパワープレーを埼玉6浜田がポストからたたきつけてゴール、5-1。山形はセットオフenseに積極性を取り戻し、ゴールキーパーの再三にわたる好守が光るが、パス繋ぎのミスで埼玉に突かれ、3'45"埼玉4染谷がカウンターでゴール。わずかのミスも見逃さないあたりはさすがである。埼玉は2'32"6浜田のアクションゴールが決まり、7-1になった時点でフィールドアを全員交代。56"山形6阿部が、埼玉のGKがセンターに気をとられているところを右隅に決めこの日2ゴール目で7-2とする。

3P、山形は5'53"6阿部がパワープレー中に外周からの素早いロングパスをタップで右隅にたたき込み、7-3。さらに続く4'18"には5村上のカウンターが決まり7-4。これで2Pの後半からの3連続失点となり、埼玉はメンバーをスタートの7人に戻す。山形は埼玉のカウンターを警戒し、セットオフenseでも早めに帰陣しながらディフェンスを固めようとするが、4'01"に4染谷が、3'10"には6浜田が連続得点を決めて9-4と再びリードを広げにかかる。食い下がりたい山形は2'30"埼玉のパスミスを見逃さずカットし、そのまま退水をとって2高橋がゴール。9-5とする。しかしカウンターを止めても、埼玉にはその後の多彩なアーリーオフenseとセットオフenseがあり、攻撃の手を緩めず山形に襲いかかる。1'50"には6浜田が、1'01"には7若松が、28"には6浜田がゴール。3Pを終了して12-5と大差がついた。

最終ピリオド。山形は東北チャンピオンのプライドもあり、なんとか自分達の持ち味を出し切り、結果に繋がりたいところである。一方の埼玉は4染谷、7若松らがゲームメイクに回り、セカンドの選手達を積極的に活躍させようとする。両チームの点の取り合いとなり一進一退の攻防が続く。6'17"山形2高橋がフローティングから右上に決めて12-6。4'19"、3'30"には埼玉13木下が連続ゴールで14-6。山形のパス回しがやや雑になったところ、57"にはパスカットを根井がそのままゴールし15-6。42"には山形2高橋がセンターから一矢を報いるが試合は15-7で終了。

埼玉は得意のカウンターで山形の攻撃を威圧し、前半で勝負をほぼ決めた形。セカンド選手にも積極的に出場チャンスを与え、明日からのリーグ戦を全員で乗り切る準備を整えた。一方の山形は、ディフェンスではやや後手に回り、試合巧者の埼玉のスピードに対応しきれなかった部分があったものの、最後まで勝負を捨てずに積極的に戦った。

記 録 者 榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 2

帽子の色 白 富山県	12	$\left. \begin{array}{r} 4 - 0 \\ 4 - 1 \\ 2 - 2 \\ 2 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 5$	青 帽子の色 香川県
天候： 曇り			審判1： 牧田 和彦 審判2： 黒谷 真功

戦評

初日の第2試合は北信越代表富山県対四国代表香川県の一戦。2004年埼玉国体ベスト8、地力ある富山県に香川県がどのように挑んでいくかが見所。

1P 試合慣れした富山県は伸び伸び有利に展開し攻め込む。香川もこれに対し必死のディフェンスで対応している。富山は3番保田（2点）・7番大井・2番池上が得点し、4-0富山リードで1P終了。香川は、自らの攻撃ペースをもってチャンスを作っていたところ。

2P 香川は右サイドにボールを展開、逆サイドへのカットインでシュートチャンスをつくるが惜しくも富山GK沢田のセーブに阻まれる。一方、個々の技量が高い富山は順調に得点を重ねる（池上・大井・5番武田・6番松岡）。ラスト1分、少ないチャンスを生かし、香川4番木村がワンタイミングでのクイックシュートで1点を返す。2P 4-1、合計得点8-1で富山リード。

3P 香川は開始2分退水パワープレーで左サイドから、木村がゲット。富山は3Pに入り、香川のゆっくりとしたリズムの攻撃に自らのペースを乱したのか、ミスが目立つ。それでも武田・池上が得点し、2点を加える。これに対し、3P終了間際、香川木村がゴール前に居残り、1点加点。このピリオド2-2のイーブンとし、合計得点10-3で富山リード。

最終ピリオド、後がない香川は少人数の攻撃で積極的に攻め、3番鎌倉が切り込みいい形でシュートチャンスを作るが、得点に至らず。富山は保田が流れの中からシュートを決める。開始3分、香川2番幾田のセンタリングを鎌倉がワンタッチで決める。さらに幾田がいい判断で右サイドからゴール前にパスを出し、退水を誘発。このチャンスを鎌倉が着実に決めた。これに対して富山はラスト1分布目が1点ゲット。香川GK飯田の好セーブも目立ち、4Pも2-2のイーブンとし、香川は後半よく粘った。最終的には前半のセーフティーリードもあり、12-5で実績のある富山の勝利となった。

記録者

峰岸 克行



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 3

帽子の色 白 沖縄県 天候： 雨	6	$\left. \begin{array}{l} 1 - 2 \\ 1 - 1 \\ 1 - 2 \\ 3 - 3 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 8$	青 帽子の色 群馬県 審判1： 福元 寿夫 審判2： 工藤 康弘
---------------------------------------	---	---	---

戦評

晴れの国岡山国体初日、Aブロックの第三試合目は沖縄県と群馬県との対戦。沖縄県は九州地区2位で突破、機動力を活かした全員オフェンス&全員ディフェンスをモットーに一回戦突破を狙う。一方の群馬は過去4回の優勝を誇る強豪、伝統のカウンターアタックから始まるオフェンスと、徹底したマンツーマンのディフェンスが秀逸である。

1P、沖縄は群馬のフローター6柳瀬を警戒するハーフゾーンディフェンス。左サイドのディフェンスを下げ、柳瀬にボールを回さない戦術を敷く。一方群馬はプレスディフェンスを仕掛けるが、沖縄が広くセットをとるために自陣ゴール前が広がる陣形となる。対照的なディフェンススタイルで、両者ともにやや堅さがみられるまま攻防が展開する。沈黙を破ったのは3' 28" 群馬6柳瀬が、4五十嵐からのパスを受けフローターゴール。ディフェンスに下げられながらも高さで豪快に決めた。対する沖縄は2' 53"、5我喜屋が4興那原との巧みなコンビネーションドライブからフローターゴールを決め1-1。28"には群馬4五十嵐が、沖縄のゾーンディフェンスをこじ開けるバウンドシュートを左隅に決め1-2としてピリオド終了。勝負は序盤からもつれ合いの様相を呈した。

2P、沖縄のハーフゾーンを群馬がやや攻めあぐねる間に、沖縄は少人数の攻撃でチャンスをつかう。4' 53"、沖縄5我喜屋がディフェンスをふりほどきフローターゴールを決め、2-2の同点に。群馬は沖縄のゾーンディフェンスにミドルシュートの精度が上がらず何度もシュートがポストをたたきディフェンスの壁に妨げられるが、28" 群馬6柳瀬がまたも4五十嵐から絶妙なパスを受けフローターゴールを決め、2-3として前半終了。ここまで沖縄は2山里（盛）をセンターバックに下げ、群馬6柳瀬を徹底マーク。退水1回の2失点と、群馬のエースを何とか封じ込めている。

接戦をものにするために、両チームとも最初のゴールが是が非でも欲しい第3P。ハーフタイムには両チーム監督のアドバイスもヒートアップする。5' 06"、群馬は待っていたカウンターアタックがついに爆発し、7塚越がゴール右下に決めて2-4。両チームとも前半とは一転し、泳ぎあいのタフなラリーが続く。2' 58" 沖縄がタイムアウトをとり、2山里（盛）を前線に押し上げる。それが功を奏し2' 42" タイムアウト後のセットオフェンスから沖縄2山里（盛）が渾身のバックシュートを決めて3-4。1' 33" 今度は群馬3柏木が沖縄のシュートミスを見逃さずカウンターアタックからゴール、3-5。ここでもう1点を取って4ピリオドに入りたい群馬は27" タイムアウトをとり、クロス攻撃からゴールを狙うがこれは失敗に終わる。勝負はまだ分からない。

4P、5' 49"、群馬6柳瀬が沖縄のディフェンスが整わないうちにフローターゴール、3-6として3ゴール差をつける。どうしてもゴールが欲しい沖縄は積極的な全員オフェンスに転じるが、逆にカウンターアタックのチャンスが群馬に与えてしまう。5' 09" 群馬6柳瀬が、2' 05" 群馬4番がそれぞれカウンターアタックを決め3-8。1' 37"と56"、沖縄5我喜屋が連続得点し、さらに17"には沖縄7安里がカウンターアタックからゴールを決め、6-8と2ゴール差まで迫るものの、後一步及ばずに試合終了。沖縄は群馬の特徴を研究したディフェンスと敵のフィールドを広く使った多彩なオフェンスで苦しめたが、後半からは群馬のカウンターアタックでリズムを崩され、点差を広げられた。群馬は前半やや堅さがみられたものの、エース柳瀬を中心に辛抱強く攻撃を繰り返し、タフで力強い水球を全国に見せつけ、明日からのリーグ戦に挑む。

記録者

榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 4

帽子の色 白 鹿児島県	7	$\left\{ \begin{array}{l} 1 - 3 \\ 1 - 3 \\ 2 - 1 \\ 3 - 4 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 11$	青 帽子の色 岡山県
天候：曇り			審判1：齊藤 好史 審判2：中 哲朗

戦評

本日第4試合、11年連続出場で高知国体7位の実績を有する鹿児島県対昨年の埼玉国体4位、地元岡山県との一戦。両者高いレベルのチームであり、熱戦が期待される。

1P開始1分半、岡山が流れの中から7番伊藤が抜け出し先取点。つづいて中盤で岡山5番松井が若干甘いディフェンスを見逃さずパスを受け、技ありのハーフシュートで加点。残り3分15、退水時に流れを止めるべく鹿児島タイムアウト。これを生かし、鹿児島6番堂下がサイドからシュートを決め1点返す。これに対し岡山は、ラスト39秒カウンターアタックで伊藤がゲットし突き放す。1Pから両者慎重なマンツーマンディフェンスで見応えがある攻防であったが、機動力に若干の強みを見せた岡山が3-1のリードで終了。

2P鹿児島は6番堂下を中心としたフローティングシステムで攻撃のリズムをつかみチャンスを生みだしたいところであるが、岡山2番キャプテン沓脱を中心とした執拗なディフェンスの前になかなかリズムに乗れない。こうした中、開始1分半、岡山はポイントゲッター松井がマークを背負いながら決める。鹿児島も堂下が得点し、なんとか食い下がる。この辺、岡山は焦りからか攻撃のリズムが悪くなりミスが続く、残り1分20秒、体制を立て直すべくベンチはタイムアウトを取得。このセット攻撃で3番辻内がしっかりゲット。さらに残り15秒、相手のペナルティファウルを誘発し、松井がペナルティシュートを決めさらにリードを広げた。2Pも3-1、合計得点6-2、岡山リード。

3Pも岡山の堅いチームディフェンスが機能し、鹿児島はなかなか攻撃が展開できない。それでも堂下が意地を見せ、センターポジションから1点を返す。一方、岡山は残り3分半、カウンターアタックから2番沓脱がキーパーの動きを見定めミドルシュートを決める。なんとかくいさがる鹿児島は、ディフェンスを背負いながらも、またもや6番堂下が決め、一進一退の攻防が続く。鹿児島の怒濤の反撃を岡山は何とかこらえた。このピリオドは鹿児島の2-1、合計得点7-4で岡山3点差のリード。4Pが勝負となる。

4P鹿児島は早い時間でなんとか得点差を縮め、試合をもつれさせたいところ。一方、岡山はペースを乱さず、着実に得点を重ねセーフティリードに持ち込みたい。こうした中、このピリオド初得点は岡山（松井）。鹿児島は必死のカウンターでチャンスを掴もうとし、中盤サイドの堂下からいいパスを受け、3番堀脇が1点を返す。岡山もすぐさま伊藤がゴール前のルーズボールを押し込み加点。さらに4番逸見がペナルティシュートを決め、岡山のリードが5点、試合時間残り3分となり、鹿児島にとってはやや厳しい状況。しかしながら残り2分半、あきらめない鹿児島は堂下、更に5番堀ノ内が得点を重ね粘る。対して岡山は、残り1分ペナルティファウルを誘発し、5番松井が決める。この試合は、最後まで全員水球を貫き、持ち味を出した地元岡山が合計得点11-7で鹿児島を下した。最後まであきらめずに粘り強いゲームを展開した鹿児島にも拍手を送りたい。

記 録 者	峰 岸 克 行
-------	---------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 5

帽子の色 白 東京都	6	$\left\{ \begin{array}{ccc} 1 & - & 1 \\ 2 & - & 1 \\ 3 & - & 0 \\ 0 & - & 2 \\ & \text{EX.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	4	青 帽子の色 三重県
天候： 曇り				審判1： 波多 祥計 審判2： 大島 明

戦 評

「あなたがキラリ☆」晴れの国岡山国体水球競技の一回戦Bブロック、東京都対三重県の対決である。「60回目の記念大会に10回目の優勝」を目指す東京に対し、U16とU18の日本代表選手を数多く揃えた三重というゲーム、一回戦屈指の好カードである。

1P、東京は先手をとり積極的に攻撃を仕掛ける。対する三重も、評価の高い東京の守備を積極的なドライブで崩そうと、両チームとも序盤からエンジン全開の攻防を見せた。先取点は東京、5'23"に大崎がパワープレーでゴール。三重は激しいプレスディフェンスのあまり、退水をとられたケースが目立った。その後は、三重は積極的に仕掛けるものの、なかなかチャンスを作りきれない。ゴール前を厚めに守る東京に対し、フローターの6山中までボールがなかなか繋がらなかった。対する東京も積極的にシュートを放つものの、ゴールには繋がらない。膠着した時間が過ぎたが、2'11"三重10大威がノータイムギリギリに放ったシュートが見事にゴール左隅に吸い込まれ1-1の同点。その後も両チームともに積極的な攻撃を繰り返すが、得点に変化がみられないまま1Pが終了した。

2P、東京はややプレスをきつめにディフェンスを調整してきた。三重はカウンターアタックを繰り返すものの、東京のGK棚村に好セーブされる。U18日本代表チームではチームメイトでもあり、お互いの手の内がわかっているだけにやりづらそうでもある。4'59"には東京11大崎が、三重のカウンターへのミスに乗じてゴールを決めて2-1とした。さらに3'51"には東京13小高が、三重のカウンターディフェンスがずれた一瞬の隙を見逃さずにゴールし、3-1とさらに点差を広げにかかる。これ以上離されたくない三重ではあるが、攻撃になかなか活路が見い出せない。ピリオド終了寸前の12"に、ようやく三重7番田中がカウンターアタックの早いパスまわしからゴール右上に切れ味の鋭いシュートを決め、3-2。前半を1点差で折り返すこととなった。

3P、立ち上がりからラリーがつづく。両者ともに見応えのある攻防を繰り返し、観客を大いに沸かせた。2'36"東京5松崎が4分以上の均衡を破るカウンターアタックでゴールを奪い、4-2の2点差とする。そして51"には再び東京3田村のカウンターで5-2と点差を広げた。そしてピリオド終了寸前の7"、東京6榊原が三重からペナルティーファールを奪い、11大崎がこの試合3点目となるペナルティーゴールを確実に決め、6-2とした。東京にとっては貴重な、三重にとっては痛いゴールであった。

最終ピリオド。東京は11大崎と13小高をポストにおき、攻撃を繰り返す。三重も何とか状況を打開しようと、6山中と7田中を中心として東京ディフェンスの穴を捜す。5'37"、東京は守備の要であったゴールキーパー棚村が永久退水となり、大きな危機を迎える。東京はフローターに入っていた13小高をGKに据え、多少の攻撃力の低下は辞さない構えを見せた。ディフェンス陣も最後の力を振り絞って攻防ともに積極的に動き回り、主導権を三重に渡すまいと必死だ。ついに1'59"、三重6山中のフローターシュートが東京ゴールネットを揺らす。6-3となり残り時間も少なく、東京は積極的かつ丁寧にボールを回し、三重は早く攻撃権を取ろうと執拗なマンツーマンで粘る。1'15"、三重2斉藤がカウンターアタックでゴール、2点差にまで迫る。盛り上がる三重は1'05"、2回目のタイムアウトをとり、残された時間での勝負に指示を与え逆転の望みをつなぐが、東京が逃げ切り、6-4の2点差で東京に軍配が上がった。

東京はスターティングGKを試合途中で欠きながらも、全員で必死のディフェンスを見せ、カウンターアタックを何度も繰り返して最後までゲームの流れを三重に渡さずに戦い抜いた。三重もジュニア期からの高い経験値を活かした見応えのある水球を見せたが、得意の攻撃を東京に封じられてしまった。

記 録 者

榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 6

帽子の色 白 福岡県	6	$\left. \begin{array}{r} 2 - 3 \\ 1 - 0 \\ 2 - 2 \\ 1 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 7$	青 帽子の色 兵庫県
天候：曇り			審判1：牧田 和彦 審判2：福元 寿夫

戦評

第6試合は九州ブロック1位福岡県対近畿ブロック2位兵庫県の一戦。1P開始後、両者硬さが抜けにくい。いい攻撃の形が作れずシュートまで繋がらず、一進一退の攻防が続く。こうした中、福岡3番永田が右サイドからミドルシュートをしっかり決め、均衡を破り、ゲームが動き始める。すぐに兵庫も4番中西がハーフループで決め返し、さらに2番田村からの高いセンタリングを5番奥田がタップシュートで2点連取。一方、福岡も2番進藤がすぐさま返すが、終了間際、兵庫中西が前へ出たところに、絶妙のパスが通り、少し前へ迫り出したGKをよく見て、ハーフループを決め、このピリオドは、3-2で兵庫がリードして終えた。

2P、福岡は開始早々、ゴール前で退水を誘発、チャンスを作るが、得点に結びつかない。福岡は厳しいマンツーマンディフェンスからカウンターアタックで流れをつかみたいものの、なかなかシュートまで繋がらない。兵庫は若干下がり目で福岡のセンターフォワード進藤と、右サイドへのカットインをケアするディフェンスシステムを敷く。しかし、福岡はディフェンスが若干中途半端になったところを見逃さず、センターフォワード進藤にうまくパスを通し、ポイントを奪う。2Pは、1-0で福岡が取り、合計得点3-3でイーブンとなった。

3P、兵庫は開始1分半、退水からのパワープレーで上から2番田村が打点の高いシュートを決める。福岡もその後の再開攻撃で、セットオフenseから6番松本が冷静にミドルを決め返す。さらに福岡は相手のターンオーバーからのカウンター攻撃で、ノーマークとなった10番下釜が思いっきりのあるミドルシュートを決める。一方、兵庫もゴール前で退水を誘発し、中西が左サイドからゲット。このピリオドも2-2でイーブンとし、合計得点5-5、勝負は4Pに持ち越された。

4P、兵庫は自らのリズムでのセット攻撃から相手ディフェンスを崩し、得点を重ねたい。一方、福岡は地道なマンツーマンディフェンスからカウンターアタックで流れをつかみたい。4P開始約2分、福岡のターンオーバーから兵庫7番林が一人飛びだし、ノーマークシュートを着実に決め、このピリオド先取点。福岡は攻防の切り返しで退水を取得。タイムアウトを取り、着実に点を返す作戦。これにポイントゲッター進藤がセンターポジションからバックシュートを決め、またもや同点とする。ラスト1'25''兵庫ベンチは2回目のタイムアウトを取得し、勝負に出る。これを中西が左に泳ぎ込みながらワンタッチのミドルシュートを決め、期待に応え1点勝ち越す。福岡はラスト19''2回目のタイムアウトを取得し、セット攻撃にかけるが、最後のミドルシュートは惜しくもバーに阻まれ、試合終了。合計得点7-6で兵庫県が福岡県に粘り勝った。

記 録 者	峰 岸 克 行
-------	---------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 7

帽子の色 白 青森県	4	$\left. \begin{array}{r} 1 - 1 \\ 1 - 3 \\ 2 - 2 \\ 0 - 4 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 10$	青 帽子の色 岐阜県
天候： 曇り			審判1： 中 哲朗 審判2： 斉藤 好史

戦評

「あなたがキラリ☆」岡山国体水球競技初日第7試合は、Bブロック青森県と岐阜県の対戦。青森は5年ぶりの国体出場であり、選手・スタッフともに新たな気持ちでリーグ戦への進出を目指す。チームカラーは全員水球、組織的なプレーを得意とし、様々な高校から選手が集まっている中でもチームワークの良さが売りである。対する岐阜は激戦の東海ブロックを2位で通過し2年連続の出場、練習時間の確保が悩みの種というが、小柄な選手が多いながらも徹底したプレスディフェンスを持ち味として、上位進出をまくろむ。

1P、多彩なドライブを積極的に行う岐阜の攻撃に対して青森は周りをよく見て落ち着いたディフェンスで対応する。青森の攻撃は大型フローター6佐藤を中心としたセットオフenseでチャンス伺い、それに対して岐阜は強いプレスでディフェンスを積極的に行う。両者による激しい攻防の後、最初の得点は3' 12"、青森6佐藤が豪快にディフェンスを回し込んだフローターゴールであった。青森が得意の攻撃パターンで先制し、1-0。続く2' 46"、岐阜3キャプテン小林が負けじとフローティングシュートを決め、1-1。両者ともにエースの取り合いで試合の幕が開いた。岐阜はディフェンスもできる3小林を守りに下げ、青森のフローター攻撃を警戒する。この後は両者得点がなく1-1のまま1P終了。

2P、両者ともに一步も譲らないラリーの後、3' 11"と2' 38"に、岐阜の2水谷、3小林が相次いでゴールを決め1-3と2ゴール差をつける。対する青森は2' 15"、4キャプテン濱田がゴール前のフローティングから華麗にバックシュートを決め3-2の1点差に詰める。しかしその直後、退水を奪った岐阜がそのまま敵陣に攻め込み1' 10"、4小川がこの試合初ゴールを決め、2-4として2P終了。フローターを活かしたいものなかなか結果につながらない青森に対し、岐阜は少ないチャンスを効率よくものにしている。

3Pの中盤、試合がまた動き出した。4' 52"青森2渡辺のミドルシュートがゴール右下に決まり3-4。これに対し、すかさず岐阜は4小川が4' 05"に青森ゴールキーパーの隙をついて貴重なミドルシュートを決め、青森の追い上げを裁ち切りにかかる。しかし青森もすばらしい集中力を発揮し、4濱田がこの日2点目のゴールを、ディフェンスをかわしてゴール右上に決める。得点は1点差の4-5。青森の全員攻撃に対し、岐阜の得意とするプレスディフェンスにやや緩みが生じはじめた。勝負の流れを決定づけるこの重要な時間帯で、岐阜はベンチの指示でディフェンスをもう一度立て直すことに成功し、それが攻撃にもうまく繋がった。1' 13"、青森の退水選手が入水する間に、岐阜の3小林が正面から放ったミドルシュートがゴールキーパーの逆をついてゴールに吸い込まれた。得点が4-6の2点差となってピリオド終了。

このままでは追われない青森は4P、もう一度攻撃を作り直したいところであるが、はやる気持ちのためかパス回しの精度が徐々に乱れ、チャンスを作れない。一方の岐阜は5' 17"に2水谷のミドルシュート、4' 41"には4小川がカウンターアタックから巧みなループシュートで4-8と突き放す。さらに3' 42"と2' 51"には、3小林が連続してフローティングゴールを決め、4-10と試合を決定づけた。

岐阜は小柄ながらも粘り強いチームディフェンスを出し切ることに成功し、抜け目のないゴール感覚で得点を重ねたことが勝利に繋がった。一方の青森は、敵ゴール前でのチャンスメイクには今一つ恵まれなかったものの、試合終了まで全員水球を忘れない積極性は、観客に強くその存在を印象づけた。

記録者

榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月10日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 8

帽子の色 白 鳥取県	13	$\left. \begin{array}{r} 4 - 1 \\ 3 - 1 \\ 2 - 1 \\ 4 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 5$	青 帽子の色 京都府
天候： 曇り			審判1： 大川 和二郎 審判2： 波多 祥計

戦評

大会初日の最終試合は、埼玉国体準優勝京都府対平成14年度高知国体優勝の鳥取県の一戦。両者、国体常連のレベルの高いチーム同士。激戦が予想される。

1P、開始後2分間両者いい形が作れず、シュートまで繋がらない。こうした中、鳥取が攻撃中盤から7番新玉のいい判断で逆サイド4番森田にパスを出し、得点。さらに新玉は左サイドから2連続得点。一方、京都は右サイドから9番三浦がカットインし、1点を返す。しかしラスト1分、鳥取はカットインで退水を誘発し、パワープレイで森田が左サイドから得点。1P 4-1、鳥取リード。

2P、京都としては得意の固いディフェンスで鳥取の動きを封じ込め、自らの着実に展開する攻撃ペースに持ち込みたいところ。こうした中、京都は少ないチャンスを生かし、サイドからのパスをセンターポジション、6番幡山がキーパーをかわしこのピリオド先取点を取る。しかしながらその後すぐ、鳥取は5番島が取り返し、さらにターンオーバーからのカウンターで6番安田が得点。安田はさらにミドルシュートを決め、2点連取。鳥取ペースで試合が続く。京都はラスト1分退水を取得、ミドルシュートを放つが鳥取ゴールキーパー池本の好セーブに阻まれる。このピリオドも3-1で鳥取が取り、合計得点7-2とリードを5点に広げた。

3P、点差を縮めるため京都は早い段階から積極的に攻撃するが、なかなか得点に至らない。逆に鳥取にペナルティスローを与えてしまい、森田に決められる。さらに、京都は退水を取り、サイドからのセンターリングを逆サイドがうまく合わせシュートするが、惜しくもオフサイドで得点にならず。一方、鳥取は流れの中から3番秋月がミドルシュートを決め加点する。残り20秒、最後まで粘る京都は、退水パワープレイで3番中野が決め1点返す。3Pは、2-1で鳥取が取り、合計得点9-3。

4P開始時点での6点差は、鳥取にとりセイフティーリードと言ってもいいであろう。京都も最後まで諦めず、自分たちの流れで水球をするよう頑張ってもらいたい。3分30秒、鳥取は退水を取得し、森田が上から確実に決めると、さらにターンオーバーからの飛び出しなどで新玉（2点）、安田がゲット、リードを広げる。ラスト1分、京都は退水から5番高山、幡山が連続得点、意地を見せた。4Pも鳥取の4-2で、合計得点13-5。総合力でやや勝った鳥取が京都を下した。最後まで懸命に粘り、攻撃し続けた京都に対し心から敬意を表したい。

記 録 者

峰岸 克行



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 9

帽子の色 白 富山県 天候： 晴れ	8 { <table style="margin: 0 auto; border: none;"> <tr><td style="padding: 0 5px;">1</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">3</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">4</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">1</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">3</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">3</td></tr> <tr><td style="padding: 0 5px;">0</td><td style="padding: 0 5px;">-</td><td style="padding: 0 5px;">1</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">E X.</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">P. T.</td></tr> <tr><td colspan="3" style="text-align: center;">-</td></tr> </table> } 8	1	-	3	4	-	1	3	-	3	0	-	1	E X.			-			-			P. T.			-			青 帽子の色 岡山県 審判1： 小谷 正 審判2： 大島 明
1	-	3																											
4	-	1																											
3	-	3																											
0	-	1																											
E X.																													
-																													
-																													
P. T.																													
-																													

戦評

岡山国体水球競技の2日目。いよいよ大会はリーグ戦に突入した。第1試合は富山県と地元岡山県の一戦。U18日本代表の武田、GK日水などを擁して個人の能力に長けた富山県に対し、チーム一丸となって全員で攻め守る岡山県と、チームカラーの対照的な両県の戦いである。

1P. 序盤の主導権は富山が握り、3保田と5武田が積極的に攻撃を仕掛ける。岡山は富山の攻撃を必死に耐え、チャンスを窺う。2' 18' 岡山5松井が、持ち前の鋭いカットインからキーパーの頭を越えるループシュートでゴール。貴重なチャンスを確実にものにした。ここから岡山に流れが移り、1' 38' には富山のパス回しのミスを見逃さずにカウンターを仕掛け、2キャプテン沓脱が確実に決めて0-2。さらに55' には富山の退水時に早くも1回目のタイムアウトを取り、その後のパワープレーで7伊藤が見事にゴールを決め0-3。ピリオド終了寸前の2' 富山10布目がミドルシュートを決め、1-3。富山の個人技あふれるプレーを岡山がしつこいディフェンスで耐え、わずかなチャンスから突破口を開いたピリオドであった。

2P. エンジンをかけたい富山は6' 15' 、5武田がパワープレーで左サイドから豪快なシュートを決め、2-3。しかしゲームの流れを引き寄せるには至らず、激しい攻防の展開が続く。富山はセンターにボールを集めチャンスを狙い、岡山は攻撃陣が波に乗り、ドライブを繰り返す。1' 38' 岡山6森國が富山ディフェンスの隙を突いたドライブシュートを決め、2-4。ここから富山3保田のハイレベルな攻撃能力が爆発した。1' 14' にはフローティングで、25' には華麗な個人技からキーパーのタイミングを外すゴールで、さらにはピリオド終了寸前の4' には味方が奪ったターンオーバーを見逃さずにゴールを決め、5-4。1分間であつという間に形勢を逆転させた。試合は富山ペースで後半へ。

3P. 5' 54' 富山は5武田が、ターンオーバーから岡山のディフェンス陣が整わないうちに6松岡からの早いパスを受け、2人のマークをはずしてゴールを決め6-4とする。しかし岡山も富山の退水によって息を吹き返し、5' 19' にはパワープレーの早いパス回しから7伊藤が左サイドにゴールを決め、6-5。4' 28' にはまたしてもパワープレーから岡山5松井がゴール、6-6の同点とする。試合の前半には富山のディフェンスに阻まれていたパワープレーが大事な場面で生きてきた。その後も両チームは一進一退の攻防を繰り返す。富山はエース5武田をやや後方に下げ、今日当たっている3保田を積極的に前方で攻めさせる。それに応えるかのように3保田は3' 19' 、岡山の退水時にディフェンスのハンドアップをかわず巧みなシュートでゴールを決め7-6、さらに2' 38' にはディフェンスを背負いながら力強いゴールを決め8-6とする。しかし岡山も1' 15' には6森國と5松井のコンビによるスピードあふれるドライブから5松井がディフェンスを引き離してゴールを決める。試合は1点差のまま最終ピリオドにもつれ込んだ。

4P. 富山はメンバーを変えてスタートしたが攻撃がなかなか噛み合わず、波に乗りきれない。逆に岡山は攻めにも守りにも勢いを見せた。4' 02' 、3' 07' と連続して退水のチャンスを獲得する。ここは逆転する最大のチャンスであったが、富山はGK日水を中心として、岡山のパスとシュートにディフェンス陣が全員で反応するレベルの高い集中力を発揮して、これらをすべて凌ぎ切った。試合は1点差のまま残り1' 02' 、富山はタイムアウトを取って勝ち切るための最終チェックを行う。対する岡山も最後まで勝利をあきらめない。残り36' 、岡山は執念の退水を獲得するが、タイムアウトは残っておらず、選手にすべてが任された。巧みなパス回しからシュートを狙うがこれを富山ディフェンスに阻まれ万事休す。試合時間は残り7' 、これで勝負あったかと思われたが富山もタイムアウトは使い切っていた。プレッシャーの中で投げたパスは痛恨のアウトオブバウンズとなり、岡山に最後のチャンスが回る。ここで迷わず岡山はエース5松井にパスを回し、松井が残り5' に執念の退水獲得。さらに4逸見の放ったクイックシュートが富山ゴールに吸い込まれたのが残り3' 。最後の最後まで目の離せない両チームのバトルは、劇的な同点で幕を閉じた。

記録者	榎本 至
-----	------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 10

帽子の色 白 東京都	4	$\left\{ \begin{array}{ccc} 1 & - & 2 \\ 0 & - & 2 \\ 3 & - & 3 \\ 0 & - & 2 \\ & \text{E X.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\} 9$	9	青 帽子の色 鳥取県
天候： 晴れ				審判1： 波多 祥計 審判2： 福元 寿夫

戦評

大会2日目第2試合は、国体優勝9回、3回の実績をそれぞれ有する東京都対鳥取県の一戦。開始早々、東京は2番町田からのセンターリングを5番松崎がワンタッチシュートで決める。しかしその後の再開攻撃で、鳥取は退水からのパワープレイで5番島が上から決め、すぐさま1点返す。さらに3分50秒、鳥取7番新玉がターンオーバーから一人抜けするも、東京GK棚村の好判断で前へでられてチャンスを潰される。1分37秒、鳥取はセットの形でトップの島からセンターポジション左の4番森田へ高いいいパスが通り、そのままタップで決める。実力者同士6対6のスピード感ある攻防で一進一退の試合展開。1Pスコアは2-1で鳥取リード。

2P5分13秒、鳥取森田がセンターポジションでディフェンスを回し込み、サイドからパスを受けゴールに押し込む。鳥取がチャンスを得点に結びつけている一方、東京は落ち着いて粘り強くボールを展開しシュートまでは繋げているが、なかなか得点に至らない。自らの流れになるまで、地道に自分たちの水球を我慢して続けることが重要であろう。29秒、鳥取森田はカウンターアタックで右奥サイドからパスを受け、ゴールキーパーをよく見て落ち着いたループシュートを決める。2Pも2-0で鳥取が取り、合計得点を4-1の3点リードとし、やや鳥取ペースは否めない。しかし両者の実力は拮抗しており、なかなか1次攻撃で得点を簡単に重ねることは難しい状況。ディフェンスの徹底は勿論のこと相手のミスを見逃さないことと、展開する連続した攻撃が必要となる。

3P開始1分、鳥取は攻防の切り返しで退水を誘発。一気にリードを広げ、流れを安定させたいベンチは、1回目のタイムアウトを取得。鳥取はパワープレイを東京GK棚村に好セーブされるが、入水後のセットプレイでボールを早く展開し6番安田が決める。さらに4分44秒、セットの流れで島から左へカットインした3番秋月に絶妙のパスが出てゲット。その後、退水パワープレイ森田が加点。東京のディフェンスがやや甘い。しかし後半東京はやっとリズムをつかみ反撃の狼煙をあげる。泳ぎながらゴール前に流れ込んできた6番榊原がボール受けざまの寝返りシュートで決めた後、12番若松、11番大崎が、ミドルシュートで2得点。このピリオド3-3のイーブンとし、合計得点7-4鳥取3点のリードで3Pを終える。

4P、東京はディフェンスからの素早い攻撃で自らのペースを掴み、早い段階で点差を縮め勝負に繋げたい。まずは4P先取点をどちらが取るかが、この試合の大きな分かれ目となる。先取点をとったのは鳥取。3分40秒、東京カウンターアタックの失敗から逆チャンスを掴んだ鳥取7番新玉がゲット。この時点で点差を4点差とする。さらにラスト3分で安田が、やや高めセンターポジションでのフローティングでパスを受け、マークを背負って振り向きざまのシュートを決め、ほぼセーフティーリード（5点差）を確保し、このまま試合終了。4Pも2-0で鳥取が取り、合計得点9-4。チャンスを着実に生かした鳥取が東京を下した。東京は最後まで諦めず泳ぎ、チャンスを作ったが、最後の詰めに泣いた。

記録者	峰岸 克行
-----	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 11

帽子の色 白 兵庫県	6	$\left\{ \begin{array}{ccc} 2 & - & 1 \\ 2 & - & 1 \\ 0 & - & 1 \\ 2 & - & 0 \\ & \text{E X.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	3	青 帽子の色 岐阜県
天候： 曇り				審判1： 中 哲朗 審判2： 工藤 康弘

戦 評

2005岡山国体水球競技第2日目の準決勝リーグ、試合はますます激しさを増してきた。Bブロックの本日2試合目、兵庫県と岐阜県の対戦である。岐阜は東海ブロックを2位で通過し、昨年に引き続いて今大会に挑んできた。対する兵庫県は、地元兵庫国体を来年に控え強化を進め、近畿予選を2位で通過してきた。

1 P、兵庫は攻撃時間をしっかり使ってスローな展開でチャンスをうかがう。ディフェンスでは左サイドの選手を下げ、フローターへのパスを抑止し、ドライブのスペースを埋めていく。一方の岐阜は、兵庫の作る広い攻撃スペースに対してプレスとゾーンを使い分け、攻撃では2水谷、3キャプテン小林、4小川らを使ってドライブやフローティングなど多彩な攻撃を試みる。3' 53" 兵庫4中西がパワープレーの中でゴールを決め先制する。それに対し岐阜は2' 47" 兵庫のパワープレーを守り切りカウンターを仕掛け、4小川からのロングパスを受けた5宮原がゴール、1-1の同点とする。2' 14" には兵庫7林が広いオープンスペースにドライブを仕掛け、ゴールキーパーの頭を抜くループシュートでゴールを決め2-1。ここまでは兵庫の、攻撃エリアを広く取りつつ少ない人数で攻撃をしかけるディフェンシブなテンポがゲームを支配している。岐阜は自分たちのリズムを取り戻すきっかけを作りたいところである。

2 P、6' 08" 岐阜のディフェンスがゴール前を警戒し、ラインを下げたところを兵庫の9レフティ黒河内がゴール左隅にミドルシュートを決め、3-1とする。岐阜はセット攻撃に様々な変化をつけ、状況を打開しようとするが兵庫のディフェンス陣に守られてしまう。5' 34" 岐阜のディフェンスの少しの緩みを突き、兵庫5奥田がドリブルで切れ込む。ゴールキーパーの頭の上を抜く巧みなシュートで得点を重ね、4-1。4' 26" 試合の流れを自分たちのペースに持ち込みたい岐阜は、兵庫の退水時に早くも一回目のタイムアウト。これが功を奏し4' 20" 岐阜7山口がポストで高く浮き上がりゴールを奪い、4-2の2点差に迫る。追加点が欲しい岐阜であるが、兵庫はボールに対して確実なディフェンスを繰り返して岐阜になかなかチャンスを作らせない。両チームともその後は追加点のないまま前半を折り返す。

3 P、5' 49" 岐阜4小川がカウンターアタックの勢いを殺さず敵陣に切り込みゴール、4-3の1点差に。タフな攻防が続く、兵庫は切れ味の鋭いドライブなどから3回のパワープレーのチャンスを得るが、岐阜の好守に阻まれ得点には繋がらない。29" には兵庫のカウンターアタックが、貴重なペナルティシュートのチャンスを生む。4キャプテン中西が託されたシュートは、岐阜ゴールキーパー高木が見事にタイミングを合わせて右手でセーブ。その直後、岐阜はカウンターアタックのチャンスを掴んだがシュートは惜しくもゴールマウスを外れて、試合は最終ピリオドを迎える。

4 P、岐阜はパスミスがやや目立ち、あせりと集中力の低下が気になる。一方の兵庫はねばり強いドライブで根気よくチャンスを伺う。4' 01" には8湯本がパワープレーで貴重なゴールをあげ、5-3。さらに1' 09" 攻め気が裏目に出た岐阜のパスミスを見逃さず、兵庫7林がワンマンカウンターを仕掛けて決定的ともいえるゴールを決める。この後、両チームともに追加点はなく試合終了。兵庫は鳥取と並んでBブロックの1位となり、以後の試合に大きな弾みをつけた。星を落とした岐阜は、午後の東京戦に向けて気持ちをリフレッシュさせて臨みたい。

記 録 者	榎 本 至
-------	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 12

帽子の色 白 埼玉県	10	$\left. \begin{array}{r} 2 - 1 \\ 2 - 1 \\ 2 - 2 \\ 4 - 1 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 5$	青 帽子の色 富山県
天候：曇り			審判1：大川 和二郎 審判2：黒谷 真功

戦評

2日目第4試合は、埼玉県対富山県の強豪同士の一戦。

5' 18" 埼玉は、カウンターから5番山口が右サイドからのシュートで得点。さらに、1' 46" カウンターアタックで4番染谷が決める。一方富山は、終了間際36" 3番保田が左サイドから泳ぎ込んで1点を返す。1Pは2-1で埼玉リード。埼玉はのびのび個人技を活かして攻撃を展開している。富山は埼玉の細かい動きに必死のディフェンスで食らいついている。

2P 埼玉は、セット攻撃から5番山口がフローティング体制から振り返りキーパーの位置をよく見てループで決める。さらに、ターンオーバーからのカウンターで7番若松が左サイドから決めて連取。再三の攻撃のチャンスをなかなか活かせていない富山も1' 48" 3対2のカウンターチャンスを作り2番池上が一点を返して、2Pも2-1で埼玉。合計得点4-2。

3P 富山は堅いディフェンスで埼玉のしつこい泳ぎを要所で止めて、自らの攻撃パターンへ繋げて点差を縮め、このピリオドをとって流れを変えたいところ。埼玉の執拗な攻撃は続くが、富山は7番大井のシュートカットなどで必死の防御。しかし、試合巧者の埼玉は細かい動きから退水を誘発、山口がゲット。富山も2番池上がセンターポジションから1点を返すと、さらにセンターポジションの5番武田に7番大井がタイミングのいいパスを出し、ワンタッチでゴールに押し込み反撃の流れをつかみかける。しかしながら埼玉も堪え、ラスト1分、退水パワープレイからポイントゲッター若松がゴールキーパーをよくみて着実にゴールを決めた。3Pは2-2のイーブンとなり合計得点6-4埼玉リード。

4P 2点差であり、4Pの流れによって試合が決まる。

富山としては早い時間でポイントを取り、望みを繋げたい。しかしながら先取点は地力に勝る埼玉、ターンオーバーから染谷が決める。さらに富山の下がり気味のディフェンスに対して埼玉は落ち着いて6番浜田が左サイドからつめてシュートゲット。埼玉ペースで試合が進む。たまたま富山ベンチは、4' 22" タイムアウトを取得し、なんとかここで立て直し最後のチャンスに望みを繋げたい。しかしながらこのセット攻撃が失敗し、逆に埼玉のカウンター攻撃で浜田が加点。残り約3分で5点差となり、勝敗はほぼ決定付いた。厳しい埼玉のディフェンスのなかでも富山は最後まで諦めず、チャンスを掴もうと泳ぎ込むがいいリズムで攻撃が展開しない。こうした中保田が意地を見せ、ミドルシュートで1点を返す。一方埼玉も、ラスト40" 11番志水のセンターポジションの頑張りから退水を誘発し、パワープレイで10番虎岩が決めゲームセット。

合計得点10-5で地力に勝った埼玉が富山を降した。

記録者	峰岸 克行
-----	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 13

帽子の色 白 群馬県	8	$\left. \begin{array}{r} 2 - 2 \\ 3 - 0 \\ 1 - 2 \\ 2 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 6$	6	青 帽子の色 岡山県
天候：		審判1： 牧田 和彦 審判2： 斉藤 好史		

戦評

2005 晴れの国岡山国体水球競技の準決勝リーグ、関東の群馬県と地元岡山県との一戦。群馬は鍛え上げられた体力にものを言わせ、フローター6柳瀬を中心にした攻撃スタイルである。対する岡山は5松井の縦横無尽なドライブ攻撃を中心にオフェンスを組み立てる。岡山はこの試合が本日の2試合目となり苦しいところであるが、観客の声援も味方につけて勝利を目指したい。

1 P. 6'41' 岡山は最初の攻撃から積極的に仕掛ける。5松井が4逸見から絶妙なタイミングでパスを受け、素早く振り抜きゴールを決めて0-1と先行する。群馬は6柳瀬をゴール前に置くが、岡山2キャプテン杏脱がしっかりと押さえ込む。さらに岡山は2'53'', 再び5松井が群馬の強力なマークを回しこんでゴールを決め、0-2。何とか最初の1点を取ってリズムを掴みたい群馬は2'36'', 6柳瀬がパワーフルなフローターからのゴールを決め、1点を返す。さらに56''には、7塚越がフローターに入り、力強く足を効かせて退水を奪い、そのままゴール。群馬は岡山の攻撃に対して徐々にタイミングを合わせ、早めかつ積極的なプレスでチャンスを掴みにかかる。このピリオドはこのまま2-2で終了。

2 P. 岡山が群馬の6柳瀬を警戒してゴール前を手厚く守ったところを、5'50' 群馬2渡辺の放ったミドルシュートが右サイドに突き刺さり、3-2とこの試合初めてリードに成功する。岡山はゴール前の攻撃スペースを広めに取り、ドライブを積極的に多用して群馬を崩そうとするが、決め手に欠く。群馬はさらに、4'50' 6柳瀬がゴール前で高く浮き上がり、パスをタップしてゴール。続けざまに4'11''には4五十嵐がカウンターアタックでゴール。一気に3連続ゴールで突き放そうとする勢い。ここで岡山は4'09'', 最初のタイムアウトをとり、選手達を落ち着かせる。

3 P. 5'42'' 群馬は6柳瀬がフロート位置をずらし、空いたスペースで7塚越にフローティングさせてゴール。巧みなコンビネーションプレーで6-2とリードを広げる。これ以上引き離されるわけにはいかない岡山は、4'05'' 6森國がパワープレーでしっかりゴールを狙い、中距離弾を決めて6-3と反撃体勢。全体的にラインを下げた岡山のディフェンスに対して群馬が立て続けにミドルシュートを外し、ゲームの流れが再び岡山に傾いていく。37''にはまたしても岡山のパワープレー、ここでは7伊藤が小気味良いバウンドシュートを群馬ネットに突き刺し、6-4の2点差で最終ピリオドに突入。

4 P. 岡山の流れは止まらず、5'17'' 4逸見が群馬の退水直後にクイックゴールをゴールキーパーすれすれに決め、6-5と群馬を射程圏内におさめる。群馬は何とかして追撃の手を断たなければならない。この場面でエース6柳瀬が爆発、4'17'にゴール前で得意の身体の大きさを活かしたタップシュートを決め、7-5。実に8分間もの沈黙を破り、力を出し切り岡山をねじ伏せにかかる。ここから両チームは一段とヒートアップし、相譲らない泳ぎ合いとタフな身体ぶつかり合いで観客を魅了する。3'44''に群馬がカウンターアタックから2渡辺がゴールを決め8-5。その後今度は岡山が群馬のミスを利用してカウンターアタックを仕掛け、群馬陣内に襲いかかる。その勢いでゴール前に飛び込んだ松井がスピードパスの角度を変えてシュートを決め、2'38''で8-6。しかし群馬はここで浮き足立たず、しっかりと時間を使って自分たちの水球を貫く。残り時間38''で岡山は2回目のタイムアウト。再開から岡山5松井が右サイドでボールをつなぎ、ゴール前でのクロス攻撃に望みをかけたが、これがオフェンスファールとなり群馬ボールとなる。この後、両チームともに追加点は無く、そのまま試合終了。群馬は勝ち点2を獲得し、Aブロックでは埼玉とともに暫定1位。明日の2戦で上位を確保したい。岡山は暫定3位となり、明日の埼玉戦が準決勝リーグ最終戦となる。

記 録 者	榎 本 至
-------	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月11日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 14

帽子の色 白 東京都	14	$\left. \begin{array}{r} 4 - 1 \\ 3 - 0 \\ 4 - 1 \\ 3 - 1 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 3$	青 帽子の色 岐阜県
天候： 曇り			審判1： 小谷 正 審判2： 工藤 康弘

戦 評

大会2日目の最終試合は、強豪東京都対東海代表岐阜県の一戦。

1P開始5分26秒、東京2番町田が高いポジションから横に切れ泳ぎ、寝返りシュートを決める。一方、岐阜も3分42秒、流れの中から3番小林からのパスを4番小川がワンタッチシュートでゴールを揺らす。東京は固いチームディフェンスから積極的なカウンターをかけチャンスを作ろうとするが、最後のつめが甘く得点に繋がらず、なかなか波に乗りきれない。それでも、1分55秒、東京はペナルティーを獲得し、大崎がきっちり決めると、41秒、パワープレーから町田が左サイドからゴールゲット、終了間際、6番榊原がミドルシュート、と連続得点。このピリオド終わってみれば4-1で東京が取った。

2P 開始30秒、東京は右サイドから町田が押し込み、さらに、11番大崎のミドルシュートがバーに当たり跳ね返ったボールを13番小高がフォローしゴール。岐阜も東京に必死に食い下がりボールを展開するが、最後のシュートを決められない。2分11秒、東京大崎がミドルシュートを決める。東京が得意のカウンターで怒濤の攻撃をたたみかける中、岐阜もGK高木を中心に必死のディフェンスで耐えている。2Pは3-0。合計得点7-1で東京リード。岐阜としてはディフェンスの徹底で東京の機動力を封じ、チャンスを実際に生かし、ポイントを重ね少しでも点差を縮めたいところ。

3P 依然東京のペースで試合が進む。6分12秒、東京9番小山がゲット。4分4秒、パワープレーから12番若松が得点。さらにターンオーバー、カウンターアタックから大崎、小高がそれぞれ加点。一方岐阜は、懸命にボールを展開させるがラストプレーでゴールに繋げることができず、東京の猛攻を懸命に防戦。こうした中29秒、パワープレーのチャンスから3番小林がゴールコーナーへシュートを決め、一矢を報いる。3P4-1、合計得点11-2で東京リード。

4P、勝敗としては既に東京の優位は固い状況にはあるが、岐阜としては、攻守両面から自らが得意とする水球で少しでも試合を進めるよう、最後まで頑張っ欲しい。しかし、東京の勢いある攻撃は止まらず、カウンターアタックからトップで抜け出し、町田が得点。岐阜はパワープレーで7番山口が返すが、すぐさま、東京は、7番秋山がセンターポジションからフローティングシュートを決める。最後に8番山本が、右サイドからゲットし、4P3-1、合計得点14-3で東京が岐阜を下した。この試合、東京は持ち味であるスピードと展開力を見せてくれた。更に細かい修正により明日の兵庫戦に期待が持てる。

一方、最後まで諦めず、食い下がった岐阜に対しても大きな拍手をおくりたい。

記 録 者 峰 岸 克 行



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 15

帽子の色 白 兵庫県 天候： 晴れ	2	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 2 \\ 1 & - & 2 \\ 0 & - & 2 \\ 1 & - & 4 \\ & E X . & \\ & - & \\ & - & \\ & P . T . & \\ & - & \end{array} \right\} 10$	青 帽子の色 鳥取県 審判1： 牧田 和彦 審判2： 黒谷 真功
---------------------------------	---	--	---

戦評

晴れの国岡山国体水球競技3日目、本日の最初の試合はBブロック兵庫県対鳥取県の一戦である。両チームともに昨日は1勝ずつをあげており、ダブルヘッダーの初戦となるこの試合も勝って上位進出に弾みをつけたい。鳥取は4森田、5島らをオフェンスの中心としており、カウンターアタック、セットオフェンスとバランスよく攻撃を展開する。一方の兵庫は4キャプテン中西が攻撃を引っ張り、左利きを二人揃えている点にも注目。また、両チームともにゴールキーパーのセーブ率が今大会ここまで60%以上と高いので、その点にも興味が集まる。

1P、兵庫はカウンターを控え全員でゆっくりと攻めあがり時間をコントロールする。この兵庫独特の攻撃のリズムに、鳥取はなかなか自分たちのペースをつかめない。膠着した時間が流れたが、2'16"鳥取は退水を誘発しチャンス到来。この局面で鳥取は丁寧にボールを回しながらディフェンスの穴を捜し、最後はレフティ5島がゴール右隅にシュートを決める。試合がようやく動き、0-1。ピリオド終了直前の25"に鳥取は再びパワープレイのチャンスを得、ディフェンスの体型が整う前に5島が連続ゴールを決める。0-2としてピリオド終了。兵庫が極端に大きなセットオフェンスを取っているために、鳥取はカウンターアタックを活かしづらい。兵庫はディフェンスでしつこく粘りロースコアゲームに持ち込み、ゴールを狙う。

2P、鳥取はセンターにボールを集め、足をしっかり使った力強い水球でゲームを進める。兵庫も全員ディフェンスでこれを防ぐが、徐々に鳥取に押し込まれていく。4'15"にはゴール前で2久城が退水を取り、4'09"には4森田がパワープレイからゴール左下にシュートを決め0-3とする。兵庫は4中西、7林を中心に少ない人数で攻撃に活路を見出そうとするが、鳥取の各個人のディフェンス能力も高く、思うように点が入らない。2'44"兵庫4中西がディフェンスの隙をついて7Mシュートを放つ。これにキーパー池本の反応が遅れ、兵庫は待望の1点をものにす。しかしその直後の2'23"この日あたっている鳥取5島が、兵庫のゾーンディフェンスの穴を見つけ、豪快なミドルシュートを決め、1-4とする。

3P、鳥取は積極的に兵庫陣内に攻め込み、再三に渡りシュートを打つ。しかしこれらがことごとくキーパーのセーブやバーに当たり、5本連続でゴールを逃す。鳥取がややリズムを崩しかけた3'10"兵庫県はタイムアウトを取り、左利きの選手を2人フィールドに配置し勝負に出る。全員で攻撃を仕掛けるオプションプレーでゲームを動かそうとするがこれが実らなかった。逆に鳥取はここからカウンターアタックを仕掛け、最後は3秋月がきっちりゴールを決め1-5。25"にはさらに鳥取4森田がゴール正面から絶妙なミドルシュートを右隅に決め、1-6として第3ピリオドが終了。

4P、兵庫は何とか巻き返しを図りたいが、鳥取もまだまだ体力十分で、余裕を持ちながらも正確なプレーで付け入る隙を与えない。5'15"鳥取は5島がカウンターからシュートを決め、1-7とする。ここで鳥取はメンバーを総入れ替えし、これまでベンチを温めていた選手達が「待ってました」とばかりにプールに飛び込む。4'35"鳥取8田中がペナルティシュートを決めて1-8、さらに3'21"鳥取10浅野がカウンターアタックからキーパーの脇を抜いて、1-9。少しでも点差を詰めたいた兵庫は攻撃スタイルを変えて全員が敵陣に入りゴールを狙う。2'08"兵庫7林がミドルシュートを決め、欲しかった追加点が入り、2-9。しかし反撃もここまで、1'38"には再び鳥取10浅野が左サイドからミドルシュートを決めて2-10とする。この後ゲームは動かず、試合終了。兵庫は勝ち点を得られなかったが、午後の東京戦では一矢を報いたい。一方の鳥取は、午後は岐阜との対戦であり、これに勝利してリーグ1位を目指す。

記録者
榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 16

帽子の色 白 埼玉県	10	$\left. \begin{array}{r} 2 - 1 \\ 3 - 1 \\ 2 - 0 \\ 3 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 4$	青 帽子の色 岡山県
天候： 晴れ			審判1： 福元 寿夫 審判2： 中 哲朗

戦 評

大会3日目第2試合、本大会大活躍の地元岡山県と昨年埼玉国体優勝チーム埼玉県との一戦。高いレベルでの熱戦が期待される。

1 P. 開始早々両者慎重な攻撃姿勢でゆっくりとしたゲーム展開。岡山は若干固さがあるのか、自ら埼玉にチャンスを与えるが、このチャンスを埼玉もなかなか生かすことができない。岡山としては地力ある埼玉に流れを与えぬよう厳しいディフェンスとねばり強く展開する攻撃で、ペースを掴んでいきたい。こうした中埼玉は、攻防の切り返しで退水を誘発し、2' 51" 落ち着いて7番若松のパワープレーで均衡を破る。岡山は少ない人数で、ボールを左右に振り、ポイントゲッター5番松井を生かす作戦であるが、パスが繋がらず逆に埼玉のカウンターを受けてしまい、8番根井が得点。しかし岡山もすぐさま次の再開攻撃で松井の鋭いカットイン攻撃で1点返し、このピリオド2-1埼玉。

岡山は埼玉のカウンターアタックをケアし、無理な攻撃は行わず前の3人でチャンスを作る作戦。なかなかゲームが動かなかったが、3' 48" 岡山4番逸見がゴール前、タイミングのいいフェイント動作でパスを受けゴールゲット。岡山はこのまま連続得点で流れを作りたいところ。しかしながら、すぐさま埼玉5番山口が右ポスト付近でのフローティングシュート、高い打点のワンタッチシュートで連取。岡山は埼玉の個人技と連続プレイを封じることが重要。そのためにも要所での1対1のディフェンスをさらに徹底したい。終了間際、埼玉は11番志水がゴール前のしぶといフローティングで加点。このピリオドも3-1で埼玉。合計得点5-2とする。岡山は再度集中あるディフェンスと消極的な攻撃にならないよう、チャンスを確実に生かして点差を縮め後半の勝負に繋げたい。

3 P. 岡山の無理をしない攻撃ペースにも、埼玉は自らの水球を崩さず、着実に得点を重ねる。なかなか岡山の流れにならない。4' 3" 埼玉6番浜田がゴール右ポスト付近からゲット。さらにセットで根井が得点しこのピリオド2-0で埼玉。合計得点7-2。

4 P. 岡山としてはこれ以上得点差を広げたくない。開始早々岡山は2回のパーソナルファールでチャンスを作るが、このチャンスを惜しくも生かせない。逆に埼玉のカウンターアタックで6番浜田が2連取。さらに9番橋本が上から決める。一方岡山は、ピリオド後半にパープレイで松井が2得点し意地を見せるも、このままゲーム終了。最終ピリオドも埼玉の3-2。この試合は埼玉の地力が光り、10-4で地元岡山を下した。惜しくも負けはしたが岡山の最後の最後まで諦めず、貪欲に水球する姿勢はさわやかな好印象を与え、応援席も納得の盛り上がりを見せていた。両チームの健闘に敬意を表する。

記 録 者

峰岸 克行



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 17

帽子の色 白 富山県	3	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 2 \\ 0 & - & 1 \\ 2 & - & 2 \\ 1 & - & 4 \\ & E X . & \\ & - & \\ & - & \\ & P . T . & \\ & - & \end{array} \right\}$	9	青 帽子の色 群馬県
天候： 晴れ				審判1： 波多 祥計 審判2： 工藤 康弘

戦評

第60回国民体育大会水球競技準決勝リーグ、Aブロックの富山県と群馬県の一戦。富山はここまでリーグ戦で1分け1敗の勝ち点1、何とかこの試合で待望の1勝を上げ上位進出を目指したい。要である5武田と3保田のオフェンスと、GK日水を中心とした鍛えられたディフェンスがこの試合でも冴えるだろうか。一方の群馬は昨日勝ち点2をあげているが、今日はダブルヘッダーであり苦しい試合が続く。しかしフローター柳瀬を中心としたセットオフェンスと、試合の最後まで落ちることのない全員によるカウンターアタックは見応え十分である。

1 P. 群馬は富山をしっかりとマンツーマンプレスで守る。個人技の豊かな富山のフローター5武田には2渡辺を配した。一方の富山はやや下がり気味のディフェンスでフローター6柳瀬を警戒し、外周から甘いミドルシュートを打たせる狙い。群馬はフローター6柳瀬が富山に対して4' 20'、2' 40' と立て続けに退水を奪うが、群馬のパワープレーを富山は冷静なコンビネーションで凌ぐ。しかしゲームの流れはやや群馬に寄っており、1' 10'、ついに群馬2渡辺が正確なパスをフローター6柳瀬に送り、見事なタップシュートでゴールを奪う。さらに37'には富山のミスから群馬がカウンターアタックを仕掛け、7塚越がゴールを決めて0-2。序盤戦を群馬が制す。

2 P. 4' 58' 群馬は得意のカウンターアタックから3柏木が6柳瀬にセンタリングをあげる。シュートを打とうとする柳瀬を富山3保田が押さえてペナルティファール。この決定的なチャンスに柳瀬の放ったペナルティシュートに対し、富山キーパー日水が素晴らしい反応を見せ右手で止める。しかし跳ね返ったボールはシューター柳瀬の目の前に落ち、これを再度柳瀬が押しこんでゴールを決め0-3とする。群馬はその後も積極的にシュートを続けるが、富山のディフェンスはよく鍛えられており、追加点を許さない。一方富山の攻撃も、群馬の力強いマンツーマンディフェンスの前にチャンスを作れない。両チームともにレベルの高い攻防を繰り返し行い、このまま2ペリオドが終了。

3 P. どうしてもファーストゴールを決めたい富山は、4' 47' 群馬のディフェンスがマークをミスしたわずかな隙を見逃さず、3保田が右サイドからミドルシュートを決める。待望の1点が入り1-3。その後両チームとも決め手のないままターンオーバーを繰り返したが、2' 19' 膠着を破る群馬4五十嵐の絶妙なループシュートが決まり1-4。このまま群馬が突き放すのか、富山の巻き返しがみられるか、ゲームの大きな山場を迎える。富山は3保田がミドルシュートを打つがならず、さらに直後のターンオーバーで6柳瀬に退水を取られ、痛恨の永久退水。攻撃の要をプールからあげたことで、群馬に勢いがつく。群馬は1' 37' これまで富山に押さえられていたパワープレーで、フォーメーションを変えて5神沢がゴール、1-5と突き放す。富山はタイムアウトを取り、逆転を目指して修正を図る。41' 富山のエース5武田が爆発、カウンターアタックで群馬のディフェンスの隙をついてゴールを決め、2-5と追いつがる。

4 P. 6' 11' 群馬7塚越が一年生とは思えない巧みなテクニックでフローターからシュートを放つ。富山ディフェンス陣がラリーから戻りきる前の、値千金のゴールで2-6。これ以上失点ができない富山は、5武田をディフェンスに回し、フローターを1年生の10布目に託す。ところが5' 19'には富山6松岡がチーム2人目の永久退水。万事休すである。しかしこの試合は、得失点差も順位に関わりかねないリーグ戦であり、ゲームを最後まで捨てるわけにはいかない。2' 19' 群馬のパワープレーシュートを止めた富山はスピードに定評のある2池上がワンマンカウンターをかけ、冷静にゴールを決め3-6とする。さらに追撃をかけたい富山であったが、群馬も連続失点を許さない。2' 30'には群馬2渡辺がパワープレーを決め、3-7。さらに1' 26'には7塚越が、30'には2渡辺がゴールをそれぞれ決め、3-9で富山を下した。これで富山はリーグ戦をすべて終了し、勝ち点1。群馬は2連勝と勢いをつけ、午後に行われる同じ関東代表の埼玉とのゲームを待つ。

記録者	榎本 至
-----	------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 18

帽子の色 白 東京都	7	$\left. \begin{array}{r} 0 - 1 \\ 1 - 0 \\ 4 - 0 \\ 2 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 3$	青 帽子の色 兵庫県
天候： 晴れ			審判1： 牧田 和彦 審判2： 斉藤 好史

戦評

本日の第4試合は東京都対兵庫県の一戦。

1 P 5分15秒、兵庫はペナルティファウルを取得、4番中西がきっちりこれを決める。東京は兵庫の下がり気味のディフェンスに若干リズムを崩されている。全員攻撃での早いカウンターでリズムを掴み、流れに乗りたいところ。東京は何回も速攻をかけ、6対5のチャンスを作るが、兵庫も必死で戻り、得点に結びつけることができないまま1 Pを終了。1 Pは1-0で兵庫リード。

兵庫は2 Pに入っても無理な攻めをせず、早めにディフェンスに戻り東京のカウンター攻撃を出させない。要所でのチームディフェンスが機能しており、東京はシュートまで持っていけず、苛立ちが見え始める。しかしながら、兵庫も、東京の攻撃を封じ込めることには成果を上げているが、自らの攻撃チャンスを有効に生みだしている状況にはない。自身の攻撃時に有効なシュートまでもっていききたい。このままでは流れをつかむことは難しくなり、いずれ地力ある東京に一気に離される恐れがある。即ち、ロスコアゲームに持ち込むとしても、どのようにしてチャンスを作り、得点を重ねるかがポイントとなる。一方こうした中、2分2秒、東京6番榊原が得点しゲームを振り出しに戻す。このピリオドは1-0で東京が取り、合計得点1-1のイーブン。後半戦が勝負である。

3 P 東京はやっと流れを掴む。5分34秒、セット攻撃から東京13番小高が得点。その後も兵庫のターンオーバーから素早いカウンターをかける。一方、兵庫はこれに対し防戦に回り攻撃の形を作れない。さらに東京は、6番山本が攻防の切り返しで退水を誘発させ、3-2のチャンスを作りそのまま得点すると、カウンターで3番田村がゲット、そして流れの中から、田村のセンターリングをワンタッチで小高が決め、このピリオド一気に4得点を重ねる。1分12秒、兵庫はタイムアウトを取得して体制の立て直しを図るが、セット攻撃で決められない。3 Pを終え、合計得点5-1となり、兵庫にとっては厳しい状況となった。

4 P、兵庫としては点差を縮めるために、今まで以上に積極的な攻撃を仕掛ける必要がある。一方東京は、リズムを維持し持ち味のディフェンスからの速攻で一気に点差を広げたい。東京は開始1分でトップ抜けの町田が追加点。一方、食い下がる兵庫もセンターポジション2番田村が横にうまく切れ、上からパスを受けゲット。さらに中西がゴール前で回しこみ退水を取ると、パワープレイで中村が決めて3点差（残り時間3' 42"）とする。兵庫としては、一気に点を稼ぎ試合をもつれさせたいものの、これ以上は続かない。一方東京は、1' 38" カウンターの流れの中からセンター小高がパスを受けこれを決め、このまま試合終了。合計得点7-3で東京が兵庫を下した。

記録者	峰岸 克行
-----	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 19

帽子の色 白 岐阜県	4	$\left. \begin{array}{r} 2 - 2 \\ 0 - 3 \\ 0 - 7 \\ 2 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 14$	青 帽子の色 鳥取県
天候： 晴れ			審判1： 工藤 康弘 審判2： 黒谷 真功

戦評

第60回国民体育大会水球競技3日目、Bブロック準決勝リーグの最終戦は、ここまで未だに勝ち点の無い岐阜県と、ここまで2勝を挙げ順調に勝ち点を上げている鳥取県との対戦である。岐阜は泳いでボールを展開しチャンスを狙う水球が信条であり、一方の鳥取は4森田、5島、6安田を中心として力強くミスの少ない水球で勝利を狙う。

1P、鳥取はパスがやや不正確で、敵陣でのドライブもやや消極的。本日2試合目ということもあってか、身体がやや起きていない印象。対する岐阜は積極的なチャレンジャー魂で、得意の横方向のドライブを起点として鳥取に襲いかかる。5' 24" 岐阜2水谷が勢いのあるカットインからゴールを決め、先取点を獲得。自分たちのペースを早めにつかみたい鳥取は3' 31" カウンターアタックをかけ7キャプテン新玉が岐阜のペナルティファールを誘い出す。このシュートを7新玉がゴール右隅に決め1-1の同点に。ここで鳥取がリズムを取り戻すかには見えなかったが、2' 00" には岐阜3キャプテン小林が巧みな個人技でボールを敵ゴール前に持ち込み、そのままキーパーの頭を抜くシュートで得点、2-1と再びリードする。これに鳥取が奮起し、1' 16" 執拗なドライブ攻撃から岐阜の退水を誘う。パワープレイで6安田が冷静にシュートを決め2-2の同点とする。鳥取は出足でややつまづいたが、徐々に本来の力強さを取り戻してきた。岐阜は積極的なドライブが功を奏しており、2P以降もチャンスを逃さず加点していきたい。

2P、5' 22" 鳥取は本来の持ち味であるカウンターアタックを繰り出し、7新玉がゴールを決めて2-3とする。鳥取はディフェンスにいつもの積極性が戻り、岐阜の攻撃を封じる。これには岐阜の攻撃もやや消極的になり、1Pのようなドライブ攻撃に陰りが見えてきた。鳥取は4森田が、2' 23" にカウンターアタックで巧みなパス回しから、さらに1' 6" 5には5島からのロングパスを素早いタッチで、連続してゴールを決める。第2Pはこのまま2-5で終了。自分達のペースを取り戻した鳥取に対し、岐阜は後半に向けて立て直しをはかりたい。

3P、最初のゴールが欲しい岐阜であったが、鳥取のカウンターアタックはとどまるどころを知らず、必死に食らいつく岐阜を引き離しにかかる。5' 48" 岐阜のパスミスをつきかき鳥取はカウンターアタックを仕掛けレフティ5島が巧みなコース取りからダブルシュートを決めて2-6とする。その後も5' 05" にパワープレイから7新玉が、3' 33" には再び5島が豪快なミドルシュートをそれぞれ放ち、鳥取が2-8とリードを広げる。2' 38" にはまたもや鳥取5島が、今度はフローティングからゴールを決め、この4分間に点差を一気に広げ2-9。岐阜は2' 38" タイムアウトを取り選手達を落ち着かせるが、鳥取は本日2試合目とは思えない爆発力でその後もさらに3連続ゴール。2' 14" 7新玉、4' 7" 4森田、7" には3秋月がゴールを積み重ね、3ピリオドを2-12として終了。

4P、鳥取はセカンドチームを投入する。攻撃のチャンスをどうしても作りたい岐阜であるが、パスの展開を徹底的に狙われてしまう。鳥取は6' 17" に12小塩がカウンターアタックで、3' 57" には10浅野がフローターからそれぞれ得点し2-14。しかし岐阜も最後に踏ん張りを見せる。4小川が3' 42" にはカットインから貴重なゴール。2' 15" には再び4小川がマークを回しこみフローターゴールを決める。この連続得点で4-14とし一矢を報いるが、その後は両チームとも追加点が無く試合終了。終わってみれば鳥取は危なげないゲーム運びで準決勝リーグを全勝。1位通過で明日の決勝に駒を進める。岐阜は残念ながら勝ち点を獲得できずに、ブロック4位が決定。明日の7-8位決定戦に、今シーズンの全てをぶつける。

記録者

榎本 至



第60回国民体育大会夏季大会 水泳（水球）競技



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月12日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 20

帽子の色 白 埼玉県 天候： 晴れ	$17 \left\{ \begin{array}{l} 4 - 1 \\ 5 - 1 \\ 3 - 1 \\ 5 - 0 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 3$	青 帽子の色 群馬県 審判1： 小谷 正 審判2： 福元 寿夫
---------------------------------	---	--

戦評

本日3日目最終試合は、関東勢同士、群馬一埼玉の戦い。

1P開始早々、6'12"群馬6番柳瀬がセンターポジションでの豪快な得点、群馬が先取点をとりスタート。しかしながら、個々人のスキルが高い埼玉は、徹底した速攻をかけ、群馬のディフェンスが十分な体勢を敷く前に激しく攻め込む。埼玉は、3番乙女が中盤からの思い切ったシュートで1点を返すと、カウンターでの怒濤の攻撃をしかける。2'29"埼玉6番浜田が左サイドからゲット、さらに、1'45"、10"4番染谷が連取し、4連続得点をあげる。群馬としては、セット攻撃においてリズムのいいボール運びで、いい体勢でセンターフォワード柳瀬にボールを入れ、チャンスを作りたいところ。また、埼玉のカウンターを防ぐためにターンオーバーに留意し、攻撃からの早い切り返しを求められる。

2P 埼玉の勢いは止まらない。開始1分埼玉浜田が決めるとその後、染谷、5番山口が得点を重ねる。群馬はセンターポジション柳瀬の頑張りでパーソナルファールを得るもののパワープレーのチャンスをなかなか生かせない。なんとか群馬ペースで水球をしたいところであり、たまたま、体制を立て直すべく1回目のタイムアウトを取得するが、得点に結びつかない。逆にターンオーバーから埼玉山口が抜け出し、ゴール。やっと群馬も36"サイドからのこぼれ球をセンターポジション柳瀬がうまくフォローし、1点を返す。柳瀬は厳しいマークの中よく耐え懸命に頑張っている。最後まで埼玉の執拗な攻撃は続き、12"センター志水が退水を取り、パワープレーで4番染谷が決め、2Pを終え、合計得点9-2埼玉のリード。

3Pになっても埼玉ペース。カウンター攻撃で浜田、染谷が得点を重ねる。一方群馬もパワープレーを活かし、1'41"7番塚越がゲット。しかし終了間際埼玉は、49"志水が加点し、3P3-1、合計得点を埼玉の12-3とする。

群馬はエース柳瀬がゴール前のもみ合いで負傷し、途中交代となり、不利な状況となる。4Pも埼玉の勢いは衰えず、カウンター攻撃を中心に、浜田（2点）、10番岩虎、12番醍醐、山口がそれぞれ決め試合を終える。合計得点、17-3と埼玉の個人技とスピードが光った試合となった。破れはしたものの、群馬も最後まで闘志を表に出し、諦めず戦い、水球にかける真面目で一生懸命な気持ちが伝わって来た。ゲーム終盤、両者エキサイトする場面もみられ、これを真剣勝負の厳しさと捉える一方、両チームとも愛する水球に取り組む姿勢、気持ちを忘れずに、明日の試合に挑んでいただけることと思う。

記 録 者	峰岸 克行
-------	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月13日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 21

帽子の色 白 富山県 天候： 晴れ	9	$\left\{ \begin{array}{ccc} 1 & - & 0 \\ 4 & - & 1 \\ 0 & - & 2 \\ 4 & - & 3 \\ & E X . & \\ & - & \\ & - & \\ & P . T . & \\ & - & \end{array} \right\}$	6	青 帽子の色 岐阜県 審判1： 工藤 康弘 審判2： 黒谷 真功
---------------------------------	---	---	---	---

戦評

平成17年晴れの国岡山国体水球競技の最終日、7-8位決定戦は富山県と岐阜県の対戦。長いシーズンの最後の試合であり両チームともに最高のパフォーマンスを出し切れるよう頑張っている。富山はゴールキーパー日水を中心として鍛え上げられたディフェンスと、今大会10得点と当たっている3保田、そしてキャプテン5武田の個人技を活かしたオフェンスに注目。一方の岐阜は体格の不利を動きでカバーするプレースタイル。キャプテン3小林、4小川の攻撃力の爆発に期待がかかる。

1P、富山は5武田、10布目をセンターにおいてセットオフェンスで攻撃を展開する。一方の岐阜はややセットを広めに取り、ドライブのエリアを確保した陣型からチャンスを伺う。最初のゴールは富山、2' 10" に10布目がミドルシュートを決め先制。岐阜は序盤の動きがやや堅く、攻撃にチャンスを見いだせないでいる。一方で富山はそれぞれの選手がのびのびとプレーをしている印象。1ピリオドはこのまま両チームともに追加点無終了。

2P、富山は最初の攻撃で、6' 26" 5武田がフローターゴール。ここでリズムを変えようと岐阜ベンチが早い動きを見せ。6' 13" 退水のチャンスにタイムアウトを取る。これが功を奏し、5' 49" パワープレーでコンビネーションの良いところを見せて3小林がゴールを決める。2-1の1点差。しかし富山はこの後個人技に長けたところを見せつける。5' 27" に3保田が放ったミドルシュートは、バウンドしてゴールに吸い込まれ、3-1。さらに3' 33" には、5武田がフローターでディフェンスを回しこみゴールを決め4-1。岐阜は3小林を中心にボールをコントロールし、少ない人数でチャンスを狙うものの突破口が開けない。富山はさらに2' 44" 再び3保田が右サイドから長距離シュートを決め、5-1とこのピリオドで3連続ゴール。富山は主力メンバーを交代させ、若手主体のセットに変えてくる。このままピリオドが終了し、試合は後半戦へ。

3P、岐阜はこれまでゲームコントロールを中心にさせていた3小林を押し上げフローターにおく。富山の攻撃がややおとなしくなる中で3' 51" 岐阜の4小川がドリブルシュート。ディフェンスに押さえられながらもゴールを決め、5-2とする。さらに1' 00" には富山のパスミスを受けてカウンターアタックを仕掛け、再び4小川がゴールを決める。これで5-3の2点差とし、岐阜が息を吹き返す。富山はこのピリオド、攻撃のミスが相次ぎ、これまでのような自分達のリズムを掴めない。53" 岐阜の退水による得点チャンスも逃し、第3ピリオドは5-3で終了。

4Pは一転してゴール合戦となる。まず5' 14" 富山は岐阜ゴール前で2池上がペナルティファールを獲得。このペナルティシュートを5武田が冷静に決めて6-3とする。4' 29" 今度は岐阜が退水を誘発し、2水谷がゴールを決め6-4。4' 05" には富山5武田がゴール前で、得意としている回しこみからフローティングシュート、7-4とする。3' 38" 岐阜の4小川が味方からのパスを指先でタッチ、これがキーパーの手を越えてゴールに吸い込まれ、7-5。両チームともに攻撃のリズムが良くなり、テンポの良い水球が展開される。富山はここから岐阜を突き放す連続ゴール。3' 12" 富山は布目のミドルシュートをキーパーがはじいたが2池上が押し込んで8-5とする。さらに2' 25" にはカウンターアタックから3保田が豪快なミドルシュートを決めて9-5。しかし岐阜は最後までゴールを諦めない姿勢でプレーする。それが実った試合終了直前の6"、富山から退水を誘発し、その後のパワープレーで2水谷がしっかりとゴールを決める。9-6で試合が終了し、富山の7位、岐阜の8位が決定した。厳しいトレーニングの末、最高のプレーを大舞台上で見た選手達に拍手を送りたい。

記録者

榎本 至



第60回国民体育大会夏季大会 水泳（水球）競技



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月13日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 22

帽子の色 白 岡山県	4	$\left\{ \begin{array}{ccc} 0 & - & 1 \\ 3 & - & 0 \\ 0 & - & 1 \\ 1 & - & 0 \\ & \text{E X.} & \\ & - & \\ & - & \\ & \text{P. T.} & \\ & - & \end{array} \right\}$	2	青 帽子の色 兵庫県 審判1： 齊藤 好史 審判2： 福元 寿夫
天候： 晴れ				

戦 評

最終日第2試合、5位・6位決定戦は、地元岡山と来期国体開催県の兵庫の一戦。

1 P. 兵庫は、本大会一貫した無理な攻撃をしないで、下がり目のディフェンスシステムを敷いて、相手チームの焦りを誘い、少ないチャンスでポイントを重ね、流れを作り込むという戦略的な水球。このことは十分理解している岡山であるが、やはりゆっくりとしたゲーム展開に戸惑い気味。下がられたノーマークの選手が、十分詰め切れずシュートを打たされる状況で得点に至らない。ゲームがなかなか動かない中、3' 22" 兵庫は4番中西が少ないチャンスを生かしゲット。岡山としては、下がられてもボールを展開し、カットインを絡めて、相手ディフェンスを崩して、チャンスをものにしていきたいもの。リズムをつかめれば岡山の持ち味であるスピードある機動力の水球が展開できる状況となるはず。1 Pはこのままで、1-0兵庫。

2 P. 4' 04" パワープレイから岡山7番伊藤が初得点。この得点でチームがやや落ち着きを以て、岡山ペースでの試合展開とできるか。岡山は3' 12" ゴール前でペナルティファールを誘い、これを4番逸見が着実に得点。更に1' 27" 2番沓脱ミドルシュートでゲット。このピリオド3-0で岡山が取り、合計得点3-1とする。岡山は、相手選手の配置をよく見て攻撃展開し、チャンスを活かし一気に引き離したい。また、ディフェンスにおいては、兵庫の少人数での攻撃に対して、1-1の慎重なディフェンスで無用なパーソナルファールを受けないよう注意が必要だ。

3 P. まだまだ兵庫のゆっくりペース。岡山はサイドからボールを持ち込むものの、ゴール前に下がった兵庫ディフェンスの前に、ラストパスを出すタイミングがあわず苦勞し、なかなか得点に繋げられない。こうした中、兵庫は少ないチャンスを生かし、3' 27" 2番田村がタイミングのいい、カットインで半身前に入り得点する。このピリオドでは兵庫が取り、合計得点3-2岡山。勝敗の行方は全く分からない。

4 P. 岡山は我慢の水球。一点差であり、ここでの焦りは兵庫の作戦にはまることを意味する。ディフェンスでは、1-1に集中してパーソナルファールに気をつけたい。そして早く、カウンター等で得点を上げ、楽になりたいところ。なかなかチャンスが生かせず、焦りがでる状況下であるが、ここまで頑張ってきた岡山チームは最後まで集中している。こうした中、やっと勝利の女神が味方する。1' 13" 今日終始、徹底したマークを受けている岡山松井がゴール前でマークを背負って退水を奪う。ここからのパスを6番森國が受け、クイックシュートでゴールイン。この時間帯で2点差にできた。兵庫ベンチも33" タイムアウトを取得、最後のチャンスにかけるも、このまま試合終了。このピリオド岡山の1-0で合計4-2。兵庫もねばり強い作戦を徹底した。一方、岡山はこれに屈することなく、最後まで集中し勝利を掴み、5位を勝ち取った。「おめでとう！岡山」見応えある、内容のあるいい試合であった。

記 録 者	峰岸 克行
-------	-------



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月13日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 23

帽子の色 白 群馬県	9	$\left\{ \begin{array}{l} 2 - 3 \\ 2 - 1 \\ 2 - 2 \\ 3 - 2 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\}$	8	青 帽子の色 東京都
天候： 晴れ		審判1： 波多 祥計 審判2： 中 哲朗		

戦評

平成17年晴れの国岡山国体水球競技最終日、群馬県対東京都の3位4位決定戦は関東勢同士の一戦となった。今大会、群馬はジュニア日本代表の6柳瀬を中心として力強い攻撃を見せてきた。今シーズンの締めくくりであるこの試合でも、タフな群馬水球を存分に見せてくれるちがいない。一方の東京はゴールキーパー棚村、2町田というユース日本代表選手を擁しており、堅いディフェンスから繰り出すカウンターアタックは水球の持つスピードと迫力を十二分にアピールしてくれる。力とスピード、対称的な2チームによる戦いであり、好ゲームは必至だ。

1P、試合はまず東京が持ち味を見せる。4' 51" 2町田がスピードに乗ったカウンターアタックで初ゴールを奪い0-1とする。続く4' 07"には、またしても東京のカウンターアタックが飛び出し、13小高がゴールを決めて0-2とする。これに対して群馬は3' 34"、これまで不発であったエース6柳瀬がフローティングから浮き球を巧みに東京ゴールに叩き込み、1-2とする。両チームともに序盤からエンジン全開である。1' 07"、群馬のパワープレーシュートを東京のキーパー棚村がしっかりセーブ、素早く飛び出した2町田にパスが通る。群馬の追撃を逃げ切り町田がそのままカウンターゴールを決め1-3とする。それに対して41"には群馬6柳瀬が再び爆発、はやくもこの試合2点目のフローターゴールで2-3としてピリオドを終了。

2P、6' 40"群馬の6柳瀬が東京のパーソナルファールを誘発。しかしここで柳瀬のペナルティシュートをキーパー棚村がセーブ、ジュニアとユースの日本代表同士の直接対決に会場は沸き上がる。試合はこの後も、両チーム一步も引かないがっぷり四つに組んだラリアーを見せる。3' 53"、東京5松崎が2町田からのパスを素早いタッチで叩き込み2-4。3' 37"に東京はここまで群馬の6柳瀬をマークしていたセンターバックの4蝦名を永久退水で失う。勢いづく群馬は、3' 15"には5神沢が、東京が2人の退水者を出したパワープレーでゴールを決め3-4とする。さらに2' 33"には4キャプテン五十嵐がカウンターアタックからゴールを決め、観衆に堂々のガッツポーズ。同点のまま前半を折り返す。

3P、両チームともにますます集中力を高め、互いに相手を引き離そうとする。5' 42"、パワープレーから東京2町田が打ったシュートを、群馬キーパー高橋が手に当てるもののゴールに吸い込まれ4-5。5' 23"、群馬の6柳瀬が、東京からこの日6回目の退水を誘発する。5' 11"、このパワープレーを2渡辺が冷静にゴール、再び5-5の同点に試合を戻す。さらに柳瀬は4' 01"、豪快なフローターシュートを決めて、6-5と群馬が初のリードを奪う。この連続ゴールで群馬に流れが移るかとも思われたが、2' 55"に東京2町田がこの試合3発目のカウンターゴールを決め、6-6の同点に持ち込む。その後は、両チームともゴールキーパーを中心としたディフェンスが光り、互いに無得点のまま6-6の同点で3Pを終了。勝負の行方は最終ピリオドにもつれ込む。

4P、6柳瀬が群馬オフェンスを引っ張る。ゴール前でディフェンスを振りほどき、5' 30"、4' 26"と続けざまにフローターシュートを決め8-6。群馬に追い風が吹いたかと思われたが2' 30"、ゴール前にポジションを取った東京の2町田が、フローターシュートを決め8-7の1点差に迫る。続く1' 31"、群馬からパワープレーを奪った東京は、2町田がシュートを右サイドにねじ込み試合はまたしても8-8の同点。スタンドの熱狂が最高潮に達する。1' 11"、最後のヤマ場ともいえるパワープレーのチャンスを群馬が獲得する。東京はこれを守りきるが、リバウンドボールを取った群馬の攻撃で6柳瀬が一瞬ノーマークに。これを群馬オフェンスは見逃さず、柳瀬が決定的なゴールを決める。試合は残り47"で9-8の1点差。東京は最後の攻撃で2町田がゴール前にポジションを取り、ディフェンスとキーパーをかわして無人のゴールにシュートを放ったがこれが惜しくもアウト。試合終了のホイッスルが鳴り、群馬が堂々3位を獲得した。最後の最後まで持てる力を発揮し、スタンドを大いに沸かせた両チームの選手達に心から拍手を送りたい。

記録者

榎本 至



水球競技速報用紙

期日：平成17年9月13日
会場：岡山市東山プール

ゲームNo. 24

帽子の色 白 埼玉県	11	$\left. \begin{array}{r} 4 - 1 \\ 2 - 1 \\ 2 - 1 \\ 3 - 4 \\ \text{E X.} \\ - \\ - \\ \text{P. T.} \\ - \end{array} \right\} 7$	青 帽子の色 鳥取県
天候：			審判1： 小谷 正 審判2： 牧田 和彦

戦評

決勝は、鳥取県対埼玉県の一戦。

1P開始早々から決勝戦らしく両者スピード感ある攻防が続く。5' 47" ターンオーバーからのチャンスを生かし、埼玉4番染谷ミドルシュートを決める。埼玉はオールコートプレスからの素晴らしい速攻をみせる。4' 29" サイドでのプレスで相手ボールをカットした染谷が、そのまま抜け出し連取。くいさがる鳥取も4' 01" 中盤での切り返しターンオーバーから4番森田が1点返す。しかし埼玉の猛攻は止まらない。7番若松がセット攻撃でフローティングシュート、さらにミドルシュートで連取。第1ピリオドは4-1で埼玉。埼玉のプレスディフェンスが素晴らしく、鳥取は攻撃時、なかなかパスを自分たちのリズムで繋げず、パスを狙われ、最終シュートまで持って行けない。

2P、両者の6-6での見応えある攻防が続く。鳥取は、キーパー池本の好セーブと集中したディフェンスで埼玉の猛攻を必至にこらえる。攻撃もややリズムを取りもどした感があり、チャンスを作るが、最後のつめが決まらず得点に結び着かない。鳥取が試合の波を掴めずにいる中、2' 41" 埼玉若松が得点。こらえる鳥取もラスト40" 6番安田がフローティングシュートで返す。しかし終了間際、埼玉は14" 6番浜田が左サイドからのカットインで冷静なループシュートを決め、このピリオドも2-1でとる。

3P、鳥取は埼玉の勢いを止め、少しでも点差を縮めたい。しかし埼玉は、5' 13" 染谷が下がっているディフェンスに対し自ら落ち着いて詰め寄り、豪快なミドルシュートを決める。一方4' 39" 鳥取はペナルティーを取得し、7番新玉が得点し返す。両者厳しい攻防が続く。1' 58" 鳥取ベンチはタイムアウトを取得し勝負をかけるが、これを生かせず、逆に埼玉はカウンターから13番木下が得点。第3ピリオドも2-1で埼玉がとり、じりじりと点差を離してこの時点で合計得点8-3と5点差のリード。鳥取としては厳しい点差となる。

4P、両者最後の最後まで激しい攻防を見せる。鳥取の勝負への執着、諦めない姿勢は素晴らしい。5' 31" 鳥取が落ち着いたパス回しで最後は2番久城がゴールゲット。埼玉も3' 56" 浜田がゴール前で横に切れ込んでゲット。これに対して鳥取は3' 38" 安田がサイドからのパスを受け、フローティングシュートで決め、更に2' 57" パワープレーから8番田中がゴール。試合時間約3分を残し、鳥取は3点差まで詰め寄った。しかし、地力ある埼玉は焦りを見せず、集中した自らの水球を続ける。1' 35" 5番山口がゴール前のルーズボールを最後まで追いかけてゴールに押し込む。2' 24" にも染谷が加点。最後鳥取はラスト2' ペナルティーを得て、森田が決め。4ピリオドは3-4で鳥取がとるも、合計得点11-7で埼玉が勝利し、優勝を決めた。

埼玉の実力は他を寄せ付けないものを感じた。鳥取はチャンスを生かせず苦労したが、最後までひたむきに全員水球を貫いた。埼玉優勝、鳥取準優勝。両者のこれまでの努力とこの大きな成果に対してここから敬意を表したい。

記 録 者 峰 岸 克 行